チリ通信

2024 年 10 月 31 日　第 14 号

JICA 海外協力隊　チリ派遣
環境教育隊員　境 純一

ごみ収集員の１日

10 月上旬、市のごみ収集車に同乗して家庭ごみ収集の仕事を 1 日経験しました。それに至った理由は二つあり、一つは任地と玉東町のごみ収集の違いを知りたかった。そしてもう一つは、任地の子どもたちの多くが自分たちのごみがどのように回収され、どこへ運ばれていくのかを知らないことから、仕事の様子を動画にして子どもたちに紹介したいと考えたためです。

体験してまず印象的だったのは朝の 6 時半から回収が始まるという点です。普段は日中に回収する様子を目にしていたため、日の出前から作業が始まることには驚きました。そして、最も印象に残ったのは回収のスピード感。スタッフは車の後方に立ったまま移動しながら、ごみ袋をテンポよく収集車に入れていきます。非常に効率的な方法だとは思いましたが、休みなく動き続けるこの作業は想像以上にハードで、初心者の私にはかなり応えました。この日、すべての作業が終了したのは午後 1 時過ぎでした。

後日、この日の様子を動画にまとめて訪問先の学校で紹介しました。子どもたちがどのような反応をするのか少々不安でしたが、意外にも子どもたちは真剣に映像を見つめ、その後質問もしてくれるなど良い反応が返ってきました。この時間の中で少しでも何かを感じてくれていると嬉しいです。

ダンボールは市でリサイクルできる資源の一つですが、多くがゴミとして出されていました。

家庭ごみの行き着く先は市営の埋立地。悪臭が漂い、大量のハエが飛び回っているため衛生環境は良くないと感じます。

授業では家庭ごみに関するクイズも交えながら紹介。

任地に限らず、一般的に「家庭ごみ収集」という仕事が大きく注目されることは少ないように思います。しかしこの仕事が私たちの日常生活に欠かせないものであることは確かです。だからこそ、従事されている方への感謝や、正しいごみ出しルールなどを学ぶためにも子どもの内からこの仕事を知る機会は必要なのではないかと感じています。

ごみ収集の様子